令和2年度

山口情報芸術センター　事業報告書

～「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセス～

令和3年9月

公益財団法人　山口市文化振興財団

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、令和２年度の山口情報芸術センターの事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設で様々な人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、鑑賞者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

令和３年９月
山口情報芸術センター
館長　三輪　忠之

目　　次

令和２年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2
令和２年度山口情報芸術センター組織図 …… 2
令和２年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3
［1］アート …… 4
［2］教育普及 …… 12
［3］地域開発 …… 14
［4］ラボ …… 16
［5］シネマ …… 18
［6］主な貸館事業 …… 26
［7］施設利用状況 …… 26
［8］その他特記事項 …… 26
主な関連新聞記事 …… 27
（参考資料）山口情報芸術センターの活動成果　35

令和2年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。

自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決 算 額（円）
施設費	161,609,649

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気･ガス･上下水道の光熱水料費（41,114千円）
②施設全体に係る清掃･空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（82,731千円）です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

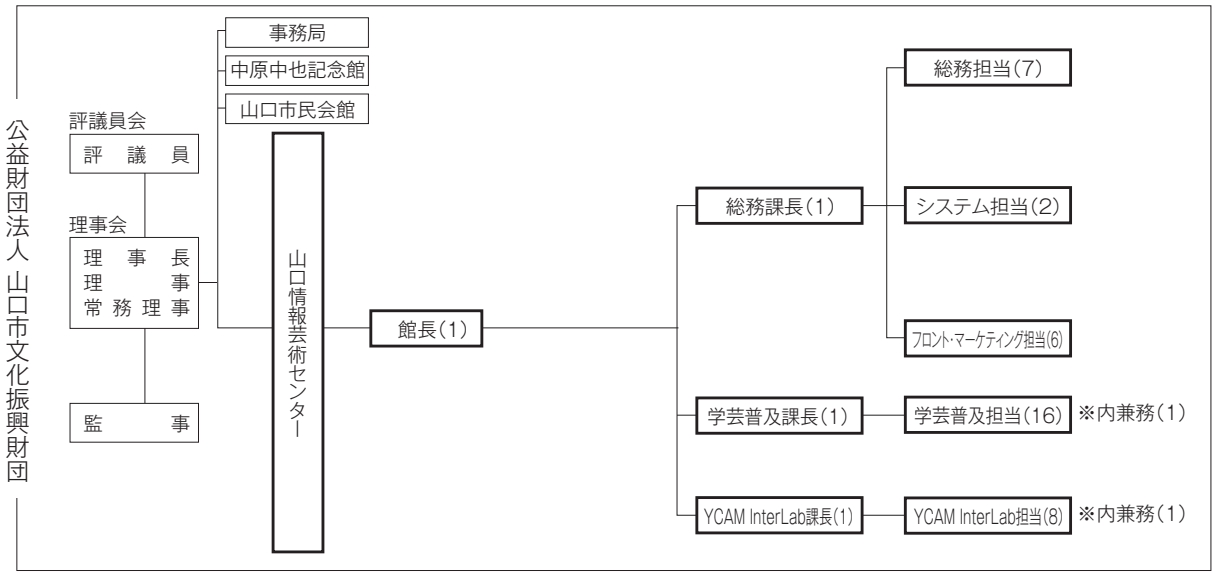
科　目	決 算 額（円）	備　　考	構成比(%)
チケット収入等	8,523,500	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	3.1
助成金収入	7,954,334	文化庁等による助成金	2.9
雑収入等	9,966,866	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、業務委託料等	3.7
補助金等収入	245,016,598	山口市からの自主事業実施に係る補助金、委託金	90.3
合　計	271,461,298		100

*チケット収入は収入全体の3.1%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決 算 額（円）	備　　考	構成比(%)
人件費	140,739,683	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	51.9
アート	70,098,736	アート企画展、ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	25.8
教育普及	5,866,021	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	2.2
地域開発	3,071,211	調査活動、ワークショップ等に係る経費	1.1
シネマ	12,382,612	シネマ上映等に係る経費	4.6
ラ　ボ	1,447,360	研究開発等に係る経費	0.5
共通事業費等	37,855,675	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等その他経費	13.9
合　計	271,461,298		100

令和2年度山口情報芸術センター組織図（令和2年4月1日現在）　※職員数 41 人



令和2年度 山口情報芸術センター概要

1　山口情報芸術センターについて

山口情報芸術センター・通称「YCAM（ワイカム）」は、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設したアートセンターです。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しており、展覧会や公演、映画上映、ワークショップなど、多彩なイベントを開催しています。

現在、私たちを取りまく社会では、コンピューターや通信技術、映像などによる「メディア・テクノロジー」が目まぐるしいスピードで進化しています。これにより、私たちの生活はあらゆる局面で情報化が進み、コミュニケーションのあり方も大きく変わりつつあります。

こうした変化は、経済活動や社会構造の変化へとつながり、「情報化社会」や「グローバル社会」などと呼ばれる、人類がかつて体験したことのない社会的状況をつくり出しました。またその変化は、個人レベルの身体感覚やリアリティ、想像力にも影響を及ぼし、それらを基盤とした新しい表現が世界中で生み出されています。

YCAMは、このような背景のもとに生まれた新しいスタイルのアートセンターです。

市民や様々な分野の専門家とともにつくり、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求をおこなっています。

また、近年ではアートの視点から地域の魅力を掘り起し、新たなつながりや価値を創出し、文化振興の枠を超えてまちの賑わいや中山間地の振興などの地域課題にも取り組んできました。

そして、この過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しています。

今後も「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に、「YCAMでなければ生み出せないオリジナル作品の制作」「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」、「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」の３点を重視しながら様々な事業を実施していきます。

2　事業の概況

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、全国的に多くの展覧会やコンサート、演劇公演などが中止や延期となるなど、文化芸術分野においては、これまで経験したことがない厳しい環境となりました。

このような中、ＹＣＡＭでは、知見を活かし、オンライン形式による事業実施を積極的に取り入れるとともに、開催期間を工夫するなどして市民が文化に触れる機会、文化活動へ参加する機会を提供できるよう努めました。

アート事業においては、インスタレーション作品をオンラインならではの作品に再構築し、発表するなど、多彩な作品の制作と発表に取り組みました。

教育普及事業においては、作品鑑賞をより理解するためのワークショップの開催や、YCAMオリジナルの教育プログラムを紹介するシリーズにおいて、新作ワークショップを開発し実施しました。

地域開発事業においては、ビデオ会議システムを通じて、毎年恒例の事業を開催するなど、メディア・テクノロジーを活用しながら、人材育成ワークショップに取り組みました。

シネマ事業においては、感染症対策を講じながら、「真夏の夜の星空上映会」や、「YCAM爆音映画祭2020」を開催したほか、「ワイカムシネマ」において、作品上映やトークイベントを実施しました。

このように、コロナ禍においても「ともにつくり、ともに学ぶ」という活動理念のもと、幅広いアプローチと、新たな作品の制作、発表に取り組み、その過程で生み出される表現や学びを発信することのできた一年となりました。

また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館及び開館時間の短縮をおこないました。

臨時休館　4月13日～5月17日及び11月5日～11月17日

開館時間の短縮　　5月18日～5月31日（平日10～19時、土日祝日10時～17時）

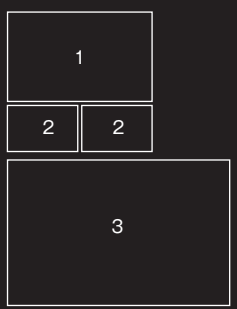
3　各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（名）
［1］アート	8	12,075
［2］教育普及	3	135
［3］地域開発	3	3,065
［4］ラボ	1	1,966
［5］シネマ	3	9,720
［6］貸館（件数）	1	30
合　計	19	26,991

＊［1］アート事業には、パフォーミングアーツ事業も含みます。

＊事業区分･事業数の詳細については、次頁からの個別事業（実施月順）の内容をご覧下さい。

[1] アート ART



1 搬入プロジェクト 山口・中園町計画デモンストレーション

2 sound tectonics#24：Mystic Rhythm
撮影：谷康弘

3 quartets online
撮影：谷康弘

1　搬入プロジェクト　山口・中園町計画デモンストレーション

開催日:7月25日（土）
会場等:オンライン配信
「搬入プロジェクト」は、会場となる建物内にかろうじて入る大きさ・形状に設計された巨大な物体を、人力で館内に搬入する様子を一種の「演劇」として提示するというものです。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初7月25日に予定していた搬入については、実施を令和3年7月24日へ延期し、その代替として、搬入プロジェクトに向けた取り組みを紹介するオンラインのイベントを開催しました。

●搬入物体設計ワークショップ

開催日:4月11日（土）～6月14日（日）　計10回
会場:YCAMホワイエ
YCAMの1/20の模型を使って、参加者がYCAMに入るギリギリの大きさの物体をデザインするワークショップです。

●搬入プロジェクト　山口・中園町計画ドキュメント

開催日:8月1日（土）～9月6日（日）
会場:YCAMホワイエ
「搬入プロジェクト」に向けて実施してきた数々の実験の成果など紹介する資料展示です。

●ギャラリーツアー

開催日:8月15日（土）～9月5日（土）　計4回
会場:YCAMホワイエ
資料展示をスタッフとともに鑑賞するツアー形式のイベントです。

2　sound tectonics#24 Mystic Rhythm

開催日:9月9日（水）
会場等:オンライン配信
入場者数:83名（前売一般1,800円他）
アーティスト: Senyawa、西原鶴真（鶴田流薩摩琵琶奏者）

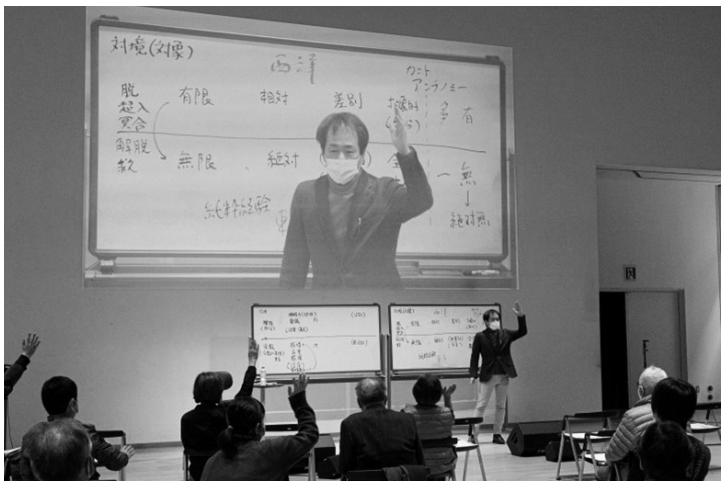
国内外の最先端のサウンド・アート、音楽表現を紹介するライブコンサートシリーズの第24弾として、現代的なオーディオ・テクノロジーと伝統的なサウンドとの間の可能性をテーマに、Senyawa（スニャワ）と西原鶴真によるパフォーマンスを、本シリーズとして初めてオンラインで配信しました。
この発表は、オーストリアのリンツで毎年開催されている世界最大規模のメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ・フェスティバル」に、YCAMが参加する形で実施しました。

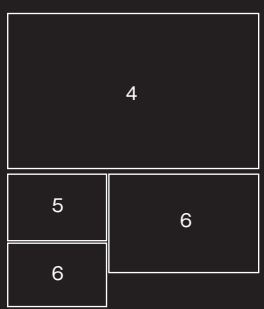
3　quartets online

開催日:令和2年9月9日（水）～令和3年9月8日（水）
会場等:オンライン配信
視聴者数:6,218人（令和3年3月末時点）（無料）
アーティスト:大友良英、平川紀道、木村友紀、石川高、一楽儀光、ジム・オルーク、
カヒミ・カリィ、Sachiko M、アクセル・ドゥナー、マーティン・ブランドルマイヤー

平成20年にYCAMが発表した音楽家・大友良英らのインスタレーション作品を、オンラインならではの作品に再構築し、発表しました。鑑賞者は、無限の即興演奏をインターネットを介しいつでも体験できます。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、文化事業の開催手法や、社会における文化のあり方が問い直される中、YCAMが持つ知見を活かし、文化表現や体験のあり方を提示する作品となりました。
この発表は、オーストリアのリンツで毎年開催されている世界最大規模のメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ・フェスティバル」に、YCAMが参加する形で実施しました。

[1] アート ART





4　坂本龍一 +YCAM InterLab インスタレーション展
Forest Symphony 【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

5　坂本龍一 + 高谷史郎インスタレーション展
water state1【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】 撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

6　ヴォイス・オブ・ヴォイド—虚無の声
ホー・ツーニェン新作展プレトーク　山口時代の西田幾多郎の原文を読む・考える 撮影：谷康弘

4　坂本龍一+YCAM InterLabインスタレーション展 Forest Symphony【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】

開催日:10月3日(土)～12月6日(日)
会場:常栄寺雪舟庭
入場者数:4,921人(大人300円(常栄寺拝観料))
アーティスト:坂本龍一(音楽家)、YCAM InterLab

山口県央連携都市圏域(山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町)で実施する「山口ゆめ回廊博覧会」において、山口市のリーディング事業として実施しました。YCAMが過去に制作、発表した作品を展示空間に合わせてアップデートし、常栄寺雪舟庭にて展示しました。

5　坂本龍一+高谷史郎インスタレーション展 water state1【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】

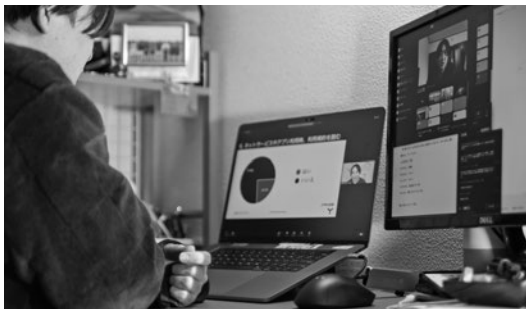
開催日:10月3日(土)～12月6日(日)
会場:YCAMサテライトA
入場者数:581人(無料)
アーティスト:坂本龍一(音楽家)、高谷史郎(アーティスト)

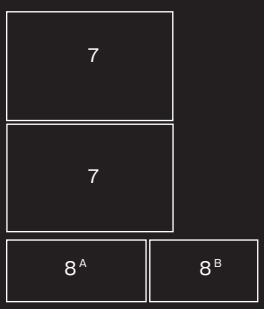
山口県央連携都市圏域(山口市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町)で実施する「山口ゆめ回廊博覧会」において、山口市のリーディング事業として実施しました。YCAMが過去に制作・発表した作品を展示空間に合わせてアップデートし、山口市駅通りのサテライトAにて展示しました。

6　ヴォイス・オブ・ヴォイド—虚無の声 ホー・ツーニェン新作展プレトーク　山口時代の西田幾多郎の原文を読む・考える

開催日:令和3年2月13日(土)
会場:YCAMスタジオB
ゲスト:佐野之人(哲学研究者)
参加者数:61人(無料)

令和3年4月から7月にかけて開催したシンガポール出身のアーティスト、ホー・ツーニェンの展覧会では、哲学者の西田幾多郎を中心に形成され、1930年代から40年代にかけて日本の思想界に大きな影響力をもった「京都学派」をテーマに、新作インスタレーションを発表しました。この展覧会のプレイベントとして開催した、本イベントでは、哲学研究者を講師に招き、西田が山口市滞在中に書いた文章を参加者と共に音読しながら、西田の思想に迫りました。





7　篠田千明 新作オンライン・パフォーマンス公演
５×５×５本足の椅子　撮影：谷康弘

8　鎖国［Walled Garden］プロジェクト
私はネットでできている？
8A 撮影：塩見浩介
8B 撮影：ヨシガカズマ

7　篠田千明 新作オンライン・パフォーマンス公演 5×5×5本足の椅子

開催日:11月22日（日）、23日（月・祝）　計2回
会場等:オンライン配信
入場者数:182人（前売一般2,000円他、山口市民無料）
アーティスト:篠田千明（演劇作家／演出家）

演劇作家・演出家の篠田千明による新作のオンライン・パフォーマンス作品を制作し、発表しました。この作品は、半世紀以上前のアンナ・ハルプリンのダンス作品『5本足の椅子』が下敷きとなっており、そのダンススコアを元に、身体の動き及びそれを取り巻く状況を、時間と空間の両面を拡張した形で再現したものです。オンラインにおける劇場空間のあり方や、今日における新たな身体像を提示する作品となりました。

8　鎖国［Walled Garden］プロジェクト 私はネットでできている？

開催日:令和3年1月30日（土）、2月6日（土）、7日（日）
会場等:オンライン配信
参加者数:29人（無料）

3年間にわたって展開する研究開発プロジェクト「鎖国［Walled Garden］プロジェクト」 の一環として、インターネットにおける個人情報の扱われ方について考えるワークショップを開発し、実施しました。
今回は、参加者がゲーム型のアクティビティをおこなうことで、インターネットに支えられた自身の日常を振り返り、今後求められるテクノロジーやコミュニケーションのあり方について意見を交わし議論を深めていきました。このプロジェクトでは、継続的にワークショップを実施し、作品制作へとつなげていきます。

[1] アート ART

1 2
3

1　やまぐち段ボールラビリンス　撮影：山口市役所広報広聴課

2　カンパニーデラシネラ「ドン・キホーテ」　撮影：田邊アツシ

3　Co. 山田うん「コスモス」　撮影：田邊アツシ

山口情報芸術センター事業とは別に、YCAMが技術協力または企画制作協力で参加した舞台公演等をご紹介します。

●やまぐち段ボールラビリンス

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
実施協力:やまぐちイベントソリューションズ協同組合Yamaguchi Event Solutions〔YES〕
開催日:8月1日(土)~16日(日)
会場:中央公園
入場者数:10,912人

段ボールを使った可変可能な迷路(ラビリンス)を中央公園に設置し、子どもたちが気軽に参加できる文化体験の場を提供しました。毎朝オープン前に子どもたちでコースを考え、変更するなど、関わりながら遊び方を変化させていきました。コロナ禍で夏休みの活動にも制限がかかる中、多くの方から喜びの声をいただきました。

●カンパニーデラシネラ「ドン・キホーテ」

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
開催日:9月25日(金)、26日(土)※2回公演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:165人

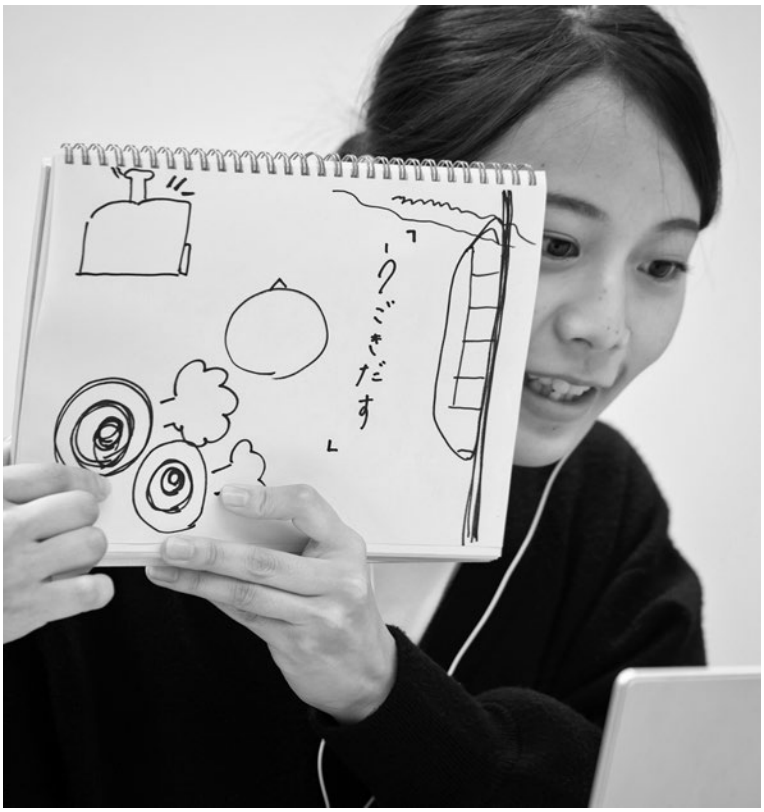
パントマイムの動きをベースに身体性に富んだ独自の演出で注目を集めているカンパニーデラシネラを招聘し、台詞を取り入れた舞台「ドン・キホーテ」を、コロナ禍をうけて、台詞を一切省いた演出表現に改変した作品として、上演しました。

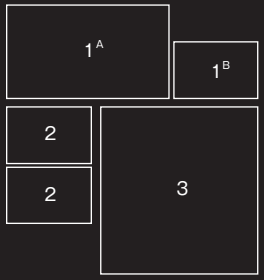
●Co.山田うん「コスモス」

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
共同主催:一般社団法人Co.山田うん
開催日:令和3年2月28日(日)
会場:YCAMスタジオA
入場者数:152人

振付家・ダンサーとして活躍する山田うん率いるコンテンポラリーダンスカンパニー・Co.山田うんを招聘し、舞台版として創作された最新作「コスモス」を、世界初演として上演しました。

[2] 教育普及 EDUCATION





1　アートってどうみたらいいの？と思ったことがある人へ
「みて、きいてみる編」「かんがえて、はなす編」　1B 撮影：谷康弘

2　見ないほうがよくみえる　【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
撮影：谷康弘

3　未来の山口の授業　音景クルーズ
撮影：塩見浩介

1　アートってどうみたらいいの?と思ったことがある人へ「みて、きいてみる編」「かんがえて、はなす編」

開催日: 9月27日(日)、9月28日(月)　計2回
会場:YCAMホワイエ、スタジオA
参加者数:計52人(無料)
講師:「みて、きいてみる編」/会田大也(アーティスティックディレクター/YCAM)
　　「かんがえて、はなす編」/平田智紀、会田大也

美術館における鑑賞教育の専門家を講師に迎え、芸術作品をより楽しんで鑑賞したり、理解する面白さを深めるための公開講座を開催しました。作品鑑賞の際に、鑑賞者の中に生まれる「分からない」という感覚を出発点に、作品鑑賞を楽しいものに変化させるための「コツ」について、ワークショップや作品鑑賞会などを交えながら学んでいく機会を創出しました。

2　見ないほうがよくみえる　【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】

開催日:11月27日(金)、28日(土)　計2回
会場等:山口県立美術館／オンライン配信
参加者数:55人(無料)
講師:原泉(エデュケーター/YCAM)、岡本麻美(学芸員/山口県立美術館)

中世の画家・雪舟の作品を題材に、美術作品を深く鑑賞するワークショップを開催しました。このワークショップでは、参加者が2人1組のペアとなり、一方が作品を鑑賞しながら、一方の目隠しをした人に作品の特徴などを言葉で伝える「ブラインドトーク」と呼ばれる鑑賞体験をおこないました。相手から伝えられた情報を踏まえて作品についての感想を述べていくことで、雪舟作品への新しい解釈が参加者から生みだされ、知られざる魅力に迫る機会となりました。

3　未来の山口の授業　音景クルーズ

開催日: 12月13日(日)、20日(日)、26日(土)、27日(日)、
令和3年1月9日(土)、10日(日)　計6回
会場等:オンライン配信
参加者数:計28人(無料)

YCAMが開発した教育プログラムを紹介するシリーズ「未来の山口の授業」の一環として、新作ワークショップを開発し、実施しました。今回のワークショップは、令和元年に制作・発表した細井美裕+石若駿+YCAMによるコンサートピース「Sound Mine」とその関連イベント「バックステージツアー」を背景にしており、音から得た「イメージ」を参加者同士で共有することで、「音」と「空間」の関わりについて学ぶものです。聴覚や空間認識能力の特性、音を通じた表現の可能性に目を向ける機会としました。

[3] 地域開発 REGIONAL RESEARCH

1　YCAM スポーツハッカソン 2020
撮影：谷康弘

2　第 5 回 未来の山口の運動会
2A 撮影：塩見浩介　2B. 撮影：谷康弘

3　スポーツ共創人材育成ワークショップ
撮影：谷康弘

1　YCAMスポーツハッカソン2020

開催日:5月3日（日·祝）～5日（火·祝）※3日間通し
会場等:オンライン配信
参加者数:21名（無料）
講師:西翼（キュレーター）、犬飼博士（ゲーム監督／eスポーツプロデューサー）、運動会屋ほか

メディア·テクノロジーを駆使して新しいスポーツのアイデアを実現する、スポーツクリエーション合宿を実施しました。今回は、会場をスタジオAからオンラインに変更し、ビデオ会議システムを通じて、開発（デベロップ）と実践（プレイ）を繰り返す「デベロップレイ」と呼ばれる制作手法を中心に、オンラインでも楽しめる最先端の運動会種目を開発しました。最終日にはそれらを楽しむ運動会（下記の2参照）を同じくオンラインで開催しました。

2　第5回 未来の山口の運動会

開催日:5月5日（火·祝）
会場等:オンライン配信
参加者数:30名／視聴者数:2,996名（無料）

YCAMスポーツハッカソン2020で生み出されたスポーツを体験する運動会形式のイベントを実施しました。今回は、会場をYCAMからオンライン上へ移し、参加者は各自の自宅などから動画配信サービスを通じて参加、観戦する形態としました。会場は変わっても、様々なメディア·テクノロジーやアイデアが詰め込まれ、学校や地域でおこなわれる運動会とは違う「未来の運動会」を体験しました。

3　スポーツ共創人材育成ワークショップ

開催日:12月5日（土）、12日（土）、13日（日）、20日（日）※4日間通し
会場等:YCAMホワイエ／オンライン配信
参加者数:18名
講師 犬飼博士、堀成美、山口征啓、玉置哲也、辰己遥、上林功ほか

「スポーツ共創」に関わる人材を育成する合宿形式のイベントをオンラインで開催しました。「スポーツ共創」とは、人々とスポーツとの関わりに、新しく「つくる（創造／開発）」の要素を加えたもので、スポーツ人口や、スポーツそのものの可能性の拡がりが期待されています。専門家を講師に迎え、スポーツ共創イベントの設計手法を学ぶとともに、参加者が自身のコミュニティなどでスポーツ共創を実現するためのアプローチ方法を検討し、実践する機会となりました。

1	
1	1
1	1
1	1

1　YCAM オープンラボ 2020　続・ナマモノのあつかいかた　撮影：谷康弘

1　YCAMオープンラボ2020
続・ナマモノのあつかいかた

開催日:6月7日（日）、6月14日（日）、6月21日（日）、6月28日（日）、7月5日（日）、7月12日（日）、7月19日（日）、7月26日（日）、8月2日（日）
会場等:オンライン配信
視聴者数:1,966人（無料）

「YCAMオープンラボ」は平成29年からYCAMの活動を紹介する複合型のイベントとして開催しており、タイトルにある「ナマモノ」とは、文字通り「生物」を指しています。生物に関わるバイオテクノロジーは、近年、食や医療、エネルギーなどの分野で応用が進むと同時に、一方で急速な技術革新から倫理や安全性などに関する議論が絶えません。
今回は、ホストに塚原悠也（contactGonzo）を迎え、昨年のオープンラボに招聘した登壇者や国内外のアーティスト・研究者らとともに、新型コロナウイルス感染症が拡大する今日の世界におけるラボや研究開発活動のあり方をテーマに、オンライン上でのトークセッションを実施しました。

トークセッション（YouTube Liveにて配信）

6月7日（日）

〇イントロダクション+COVID-19パンデミックに対するオープンソース・DIYコミュニティの対応

6月14日（日）

〇コラボレーション、コミュニティ、そしてジャムウ:インドネシアにおけるCOVID-19対策の3つの要素
ゲスト:ヌル・アクバル・アロファトゥラ（研究者）

6月21日（日）

〇ガーナにおけるCOVID-19への対応:オープン・サイエンスとバイオテクノロジー
ゲスト:ハリー・アクリゴ（研究者）

6月28日（日）

〇生物学、謙虚さ、そしてアートの可能性
ゲスト:オロン・カッツ（アーティスト・研究者）

7月5日（日）

〇シチズン・サイエンス、コミュニティ・バイオテクノロジーの役割から、生態系の拡張まで
ゲスト:片野晃輔 （ワイルド・サイエンティスト）

7月12日（日）

〇バイオラボ:芸術実践のためのプラットフォーム、市民と生物学をつなぐ場所
ゲスト:ゲオルク・トレメル（アーティスト）

7月19日（日）

〇コロナ禍にアーティストでありサイエンティストであること
ゲスト:J.J.ヘイスティングス（バイオハッカー／アーティスト）

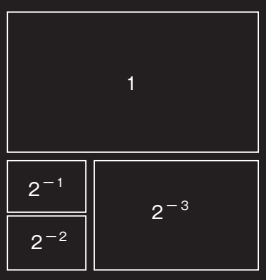
7月26日（日）

〇パンデミックと市民主導の動き:信頼と透明性、オープンアクセス
ゲスト:ベス・リー

8月2日（日）

〇パンデミック後の芸術:市民参加と連帯
ゲスト:ボヤナ・ピシュクル（キュレーター）

[5] シネマ CINEMA



1　真夏の夜の星空上映会　撮影：谷康弘

2^{-1}　●樋口泰人＋吉開菜央トークイベント　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

2^{-2}　●樋口泰人＋降矢聡トークイベント　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

2^{-3}　YCAM 爆音映画祭 2020 バックステージツアー　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1　真夏の夜の星空上映会

開催日:8月7日（金）～9日（日）
会場:中央公園
入場者数:計609名（無料）
上映作品:『ワイルドツアー』『ペット2』『バンブルビー』

YCAMに隣接する中央公園において、芝生の上で鑑賞する野外上映会を開催し、『ワイルドツアー』の上映前には、出演者による舞台挨拶がおこなわれました。YCAMの「夏の風物詩」として16回目を迎える中、初めて事前申込制とし、十分間隔をあけてお座りいただくなどコロナ対策を講じて実施しました。

2　YCAM爆音映画祭2020

開催日:12月4日（金）～6日（日）
会場:YCAMスタジオA
入場者数:計982名（前売一般1回券1,300円他）
上映作品:『ジュディ虹の彼方に』『スウィング・キッズ』『天使 ／L'ANGE』『マーウェン』『吉開菜央短編映画集「梨君たまこと牙のゆくえ」「みずのきれいな湖に」「Grand Bouquet」「Wheel Music」』『WAVES／ウェイブス』『mid90sミッドナインティーズ』『ミッドサマー』『デッド・ドント・ダイ』『ダムタイプ新作パフォーマンス:2020』『空に住む』『WAR ウォー!!』

ライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて、繊細な大音響で映画を鑑賞するイベントとして、YCAMでは平成25年から開催しています。国内でも最高レベルの音響環境と言われるスタジオAを会場に、毎年工夫に溢れたセッティングで上映をおこなっています。繊細な大音響で映画を鑑賞する本イベントは、これまで気づくことのなかった作品内で追及されているサウンド面の「核心」を、物語や画面上の構成とともに体感する機会となりました。

●樋口泰人＋吉開菜央トークイベント

開催日:12月5日（土）
会場:YCAMスタジオA
登壇者:樋口泰人（爆音映画祭主宰／映画批評家）、吉開菜央（映画作家）

●樋口泰人＋降矢聡トークイベント

開催日:12月5日（土）
会場:YCAMスタジオA
登壇者:樋口泰人、降矢聡（映画上映団体主宰）

●樋口泰人＋会田大也＋大脇理智トークイベント

開催日:12月6日（日）
会場:YCAMスタジオA
登壇者:樋口泰人、会田大也（YCAM）、大脇理智（YCAM）

撮影:山中慎太郎（Qsyum!）

●YCAM爆音映画祭2020バックステージツアー

開催日:12月6日（日）
会場:YCAMスタジオA、スタジオC
講師:樋口泰人、前原美織（YCAM）、原泉（YCAM）

爆音映画祭主宰で映画評論家の樋口泰人を講師に迎え、映画『マーウェン』のワンシーンを、通常の映画の環境と「爆音上映」の2つの環境で見比べ／聴き比べを通じて、映画における音の魅力を探るツアー形式のイベントをおこないました。

[5] シネマ CINEMA

3　ワイカムシネマ

会場:YCAMスタジオC
料金:一般1,300円他

撮影:勝村祐紀

山口では上映される機会の少ない映画作品をプログラムの中心とし、作家やテーマ別のYCAMだけのオリジナルの特集企画のほか、文化庁推薦作品などの優れた特集シリーズを巡回上映しました。また、映画監督や出演者、評論家を招いたトークイベントを定期的に開催しました。
新型コロナウイルス感染症対策として、4月15日～5月31日までの上映を中止し、6月からは座席数を53席に限定したうえで上映を再開しました。

撮影:勝村祐紀

●世界のファミリーヒストリー

開催日:4月1日（水）～7月31日（金）の内23日間
入場者数:343名
上映作品:「長いお別れ」「私のちいさなお葬式」「風をつかまえた少年」「幸福路のチー」「家族を想うとき」

●人間の"生"を描く

開催日:4月2日（木）～7月30日（木）の内19日間
入場者数:256名
上映作品:「火口のふたり」「男と女　人生最良の日々」「宮本から君へ」

●富田克也監督最新作

開催日:6月4日（木）～13日（土）の内5日間
入場者数:84名
上映作品:「典座－TENZO－」

●2019年韓国観客動員数上位作品

開催日:6月4日（木）～21日（日）の内10日間
入場者数:235名
上映作品:「エクストリーム・ジョブ」「EXIT（イグジット）」

●想像をはるかに超えるエンディング

開催日:6月4日（木）～28日（日）の内13日間
入場者数:240名
上映作品:「9人の翻訳家　囚われたベストセラー」「だれもが愛しいチャンピオン」

●いま、向かい合うべきドキュメンタリー映画

開催日:7月2日（木）～31日（金）の内14日間
入場者数:346名
上映作品:「人生をしまう時間（とき）」「i－新聞記者ドキュメント－」

【関連】森達也オンライントークイベント
開催日:7月24日（金）
登壇者:森達也（映画監督）

撮影:谷康弘

●アニエス・ヴァルダ（ヌーヴェル・ヴァーグの祖母）追悼上映

開催日:7月4日（土）～12日（日）の内5日間
入場者数:94名
上映作品:「ダゲール街の人々」「アニエスによるヴァルダ」「ラ・ポワント・クールト」

●唯一無二の夢の叶え方

開催日:8月1日（土）～15日（土）の内9日間
入場者数:120名
上映作品:「シュヴァルの理想宮　ある郵便配達員の夢」

●子どもたちの声、未来からの伝言

開催日:8月1日（土）～29日（土）の内17日間
入場者数:380名
上映作品:「子どもたちをよろしく」「レ・ミゼラブル」「いただきます　ここは、発酵の楽園」

【関連】寺脇研オンライントークイベント
開催日:8月2日（日）
登壇者:寺脇研（映画プロデューサー）

【関連】寺脇研＋前川喜平オンライントークイベント
開催日:8月5日（水）
登壇者:寺脇研、前川喜平

撮影:谷康弘

●戦後75年―。今私たちに、勇気をくれる戦争映画

開催日:8月14日（金）～22日（土）の内5日間
入場者数:110名
上映作品:「この世界の（さらにいくつもの）片隅に」

●音楽と共に綴る光と闇

開催日:8月19日（水）～30日（日）の内10日間
入場者数:247名
上映作品:「ポップスター」「スウィング・キッズ」

●佐々部清監督追悼上映

開催日:8月21日（金）～28日（金）の内5日間
入場者数:91名
上映作品:「八重子のハミング」

●人生の手入れ

開催日:9月3日（木）～26日（土）の内17日間
入場者数:421名
上映作品:「シェイクスピアの庭」「花のあとさき　ムツばあさんの歩いた道」「ビッグ・リトル・ファーム　理想の暮らしのつくり方」

●戦後75年―。引き裂かれた思い

開催日:9月3日（木）～21日（月・祝）の内8日間
入場者数:185名
上映作品:「ひまわり　50周年HDレストア版」

●美の記憶

開催日:9月12日(土)～26日(土)の内10日間
入場者数:270名
上映作品:「プラド美術館　驚異のコレクション」美の記憶

【関連】河野通孝トークイベント
開催日:9月19日(土)
登壇者:河野通孝(山口県立美術館副館長兼学芸課長)

撮影:谷康弘

●なぜ、生きているのか

開催日:9月17日(木)～26日(土)の内7日間
入場者数:177名
上映作品:「風の電話」

【関連】諏訪敦彦オンライントークイベント
開催日:9月20日(日)
登壇者:諏訪敦彦(映画作家)

●言葉を放つ　耳を傾ける

開催日:10月1日(木)～11月3日(火･祝)の内17日間
入場者数:259名
上映作品:「コロンバス」「はちどり」

●戦後75年ー。忘れてはならないあの日のこと

開催日:10月1日(木)～31日(土)の内8日間
入場者数:64名
上映作品:「隣人のゆくえーあの夏の歌声ー」

【関連】柴口勲トークイベント
開催日:10月3日(土)、10月18日(日)
登壇者:柴口勲(映画監督)

●大林宣彦監督が新しい世代へ託すメッセージ

開催日:10月1日(木)～31日(土)の内11日間
入場者数:195名
上映作品:「海辺の映画館　キネマの玉手箱」

【関連】中原豊トークイベント
開催日:10月11日(日)
登壇者:中原豊(中原中也記念館 館長)

●山口情報芸術センター特別企画《water state1》記念上映

開催日:10月3日(土)～17日(土)の内5日間
入場者数:26名
上映作品:「DUMB TYPE 高谷史郎　自然とテクノロジーのはざま」

●社会は何を変えるべき?

開催日:10月7日(水)～11月3日(火･祝)の内13日間
入場者数:280名
上映作品:「21世紀の資本」「もったいないキッチン」
「いただきます　ここは、発酵の楽園」※アンコール上映

●レイシズム（racism）＝人種差別に向き合う

開催日:10月22日（木）～11月3日（火・祝）の内8日間
入場者数:78名
上映作品:「SKIN 短編 + SKIN／スキン 2作品上映」

●山口情報芸術センター特別企画《Forest Symphony》《water state 1》記念上映

開催日:11月18日（水）～29日（日）の内5日間
入場者数:17名
上映作品:「あなたの顔」

●「YCAM爆音映画祭2020」予告上映

開催日:11月18日（水）～29日（日）の内8日間
入場者数:89名
上映作品:「ようこそ映画音響の世界へ」

●なぜ、闘うのか?何と闘うのか?

開催日:11月18日（水）～12月26日（土）の内23日間
入場者数:443名
上映作品:「パブリック　図書館の奇跡」「娘は戦場で生まれた」「なぜ君は総理大臣になれないのか」「はりぼて」

●過去も全て抱きしめて

開催日:11月18日（水）～12月27日（日）の内18日間
入場者数:231名
上映作品:「ペイン・アンド・グローリー」「海の上のピアニスト」

●知るために、知る

開催日:11月19日（木）～12月12日（土）の内9日間
入場者数:126名
上映作品:「プリズン・サークル」「死霊魂」

【関連】坂上香オンライントークイベント
開催日:11月27日（金）
登壇者:坂上香（映画監督）

●道は壊して開くもの!

開催日:12月16日（水）～27日（日）の内8日間
入場者数:53名
上映作品:「ブックスマート　卒業前夜のパーティーデビュー」

●襲いかかる未来!

開催日:12月19日（土）～12月27日（日）の内5日間
入場者数:56名
上映作品:「ドロステのはてで僕ら」

●優しい嘘

開催日:令和3年1月6日（水）～1月31日（日）の内16日間
入場者数:174名
上映作品:「ファヒム　パリが見た奇跡」「フェアウェル」

●人生の謎解き

開催日:令和3年1月6日(水)～1月30日(土)の内19日間
入場者数:309名
上映作品:「メイキング・オブ・モータウン」「ジョーンの秘密」「ぶあいそうな手紙」

●優秀映画鑑賞推進事業　おんなのゲキジョウ

開催日:令和3年1月8日(金)～1月11日(月・祝)の内4日間
入場者数:142名
上映作品:「五番町夕霧楼」「五瓣の椿」「夜の河」「雪国」

●私ここからはじめる

開催日:令和3年1月13日(水)～1月30日(土)の内8日間
入場者数:73名
上映作品:「空に住む」

【関連】青山真治オンライントークイベント
開催日:令和3年1月23日(土)
登壇者:青山真治(映画監督／小説家)

●共生について考える

開催日:令和3年1月16日(土)～1月31日(日)の内16日間
入場者数:200名
上映作品:「精神」「精神0(ゼロ)」

【関連】想田和弘+柏木規与子トークイベント
開催日:令和3年1月16日(土)
登壇者:想田和弘(映画作家)、柏木規与子(太極拳師範／ダンサー)

撮影:ヨシガカズマ

●ジャズ界の帝王、その真実の姿

開催日:令和3年2月3日(水)～14日(日)の内4日間
入場者数:109名
上映作品:「マイルス・デイヴィス クールの誕生」

●韓国映画のパッション

開催日:令和3年2月3日(水)～28日(日)の内14日間
入場者数:338名
上映作品:「ブリング・ミー・ホーム 尋ね人」「82年生まれ、キム・ジヨン」

●世界の河瀬直美監督最新作

開催日:令和3年2月3日(水)～26日(金)の内11日間
入場者数:398名
上映作品:「朝が来る」

【関連】河瀬直美オンライントークイベント
開催日:令和3年2月3日(水)
登壇者:河瀬直美(映画監督)

●ナチスドイツに揺れる家族たち

開催日:令和3年2月4日(木)～28日(日)の内14日間
入場者数:240名
上映作品:「ヒトラーに盗られたうさぎ」「バルーン 奇蹟の脱出飛行」

●メディアは敵か、味方か?

開催日:令和3年2月5日(金)～28日(日)の内12日間
入場者数:120名
上映作品:「VIDEOPHOBIA」「さよならテレビ」

【関連】宮崎大祐オンライントークイベント
開催日:令和3年2月11日(木・祝)
登壇者:宮崎大祐(映画監督)

●映像版「コスモス」上映会

開催日:令和3年2月26日(金)～27日(土)の内2日間
入場者数:20名
上映作品:「コスモス(映像版)」

●交差するアイデンティティ

開催日:令和3年3月6日(土)～3月31日(水)の内16日間
入場者数:1,057名
上映作品:「ミッドナイトスワン」「ハニーランド 永遠の谷」「「父と子」という個人的な物語」「アイヌモシリ」

【関連】福永壮志オンライントークイベント
開催日:令和3年3月20日(土・祝)
登壇者:福永壮志(映画監督)

●パヴァロッティ　太陽のテノール

開催日:令和3年3月6日(土)～24日(水)の内7日間
入場者数:168名
上映作品:「パヴァロッティ　太陽のテノール」

●歴史に刻まれた存在

開催日:令和3年3月6日(土)～31日(水)の内15日間
入場者数:337名
上映作品:「燃ゆる女の肖像」「博士と狂人」

[6] 主な貸館事業

●やまぐち未来維新塾TECH

主催:山口県、株式会社YMFG ZONEプランニング
開催日:10月17日(土)
会場:YCAMスタジオB

[7] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳(人)

月	人数	月	人数
4月	13,270	10月	37,293
5月	15,559	11月	17,481
6月	29,628	12月	26,938
7月	35,032	1月	27,485
8月	40,008	2月	32,160
9月	33,097	3月	28,428
合　計	336,379人		

2 見学・視察者数

月別内訳(人)

月	人数	月	人数
4月	−	10月	57
5月	−	11月	1
6月	16	12月	19
7月	8	1月	4
8月	7	2月	2
9月	35	3月	−
合　計	149人		

3 施設使用状況

施設	開館日数(日)	使用日数(日)	使用率(%)
スタジオA	259	94	36.3
スタジオB	259	71	27.4
スタジオC	259	245	94.6
多目的室	259	164	63.3

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[8] その他特記事項

1 広報・アーカイブ事業

ウェブサイトにおいて、過去の作品内容の情報提供に努めました。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習(オンライン実習)
7名(山口県立大学)、1名(福岡大学)
期間:9月2日〜9日
内容:教育普及事業運営実習等

●インターン
1名(東京藝術大学)
期間:令和3年3月8日〜4月8日
内容:YCAM InterLab課業務実習等

3 新型コロナ対策での専門家の知見活用

各事業においては、専門家から具体的なアドバイスを受けながら、開催形態や開催時期等を検討のうえ、十分な対策を講じて実施しました。

感染症の専門家によるレクチャー　撮影:谷康弘

主な関連新聞記事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

[参考資料]山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

3月　坂本龍一+高谷史郎『LIFE—fluid, invisible, inaudible...』が北京で再展示

2007年にYCAMで制作し、世界初公開として発表した坂本龍一+高谷史郎『LIFE—fluid, invisible, inaudible...』が、北京の私設美術館·木木芸術社区（M WOODS HUTONG）で開催の、坂本龍一による中国での初個展「坂本龍一:观音听时 | Ryuichi Sakamoto: seeing sound, hearing time」において、アップデートされ展示されました。

3月　坂本龍一+高谷史郎『water state 1』が北京で再展示

2013年にYCAMで制作し、世界初公開した坂本龍一+高谷史郎『water state 1』が、北京の私設美術館·木木芸術社区（M WOODS HUTONG）で開催の、坂本龍一による中国での初個展「坂本龍一:观音听时 | Ryuichi Sakamoto: seeing sound, hearing time」において、アップデートされ展示されました。

※過去の成果、詳細については、山口情報芸術センターのウェブサイト（https://www.ycam.jp）をご覧ください。

令和2年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
information@ycam.jp
https://www.ycam.jp

［発行］令和3年9月

公益財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
zaidan-info@ycfcp.or.jp
https://www.ycfcp.or.jp